



第65回

日本伝統工芸展

国内最大規模の公募展

THE 65th JAPAN TRADITIONAL *Kōgei* EXHIBITION

1/23(水) → 29(火)

仙台三越 本館7階ホール
午前10時～午後7時30分 [最終日29日(火)は午後5時にて終了。]

入場
無料

主催 / 宮城県教育委員会・仙台市教育委員会・NHK仙台放送局・朝日新聞社・河北新報社・公益社団法人 日本工芸会
後援 / 宮城県・仙台市



日本工芸会総裁賞 し ぶいちぞうがんうちだしぎんき 四分一象嵌打出銀器 まえだ ひろとみ 前田 宏智



高松宮記念賞 かんしつ らでんかみせしほこ 乾漆螺鈿天牛箱 しんたに ひとみ しんたに ひとみ

日本の優れた伝統工芸の保存と後継者の育成を目的に、公益社団法人 日本工芸会が毎年開催する国内最大規模の公募展。会場では、陶芸、染織、漆芸、金工、木竹工、人形、諸工芸の7部門の人間国宝の最新作と、一般公募作品より厳正な鑑・審査を経て選ばれた入選作300余点を一堂に展覽いたします。



MITSUKOSHI
仙台
〒980-8543 仙台市青葉区一番町4-8-15
TEL/022-225-7111(大代表)
http://www.mitsukoshi.co.jp/sendai/



日本工芸会会長賞

せんびょうき かもんはないれ もりた ゆりこ
〈陶芸〉線描幾何文花入 **森田 由利子**
掻き落としの装飾法は、素朴なだけに作り手の感性が試される。フリーハンドのタッチが、のびやかだが黒々と引き締まった形姿にふわりとした美感を与えている。



文部科学大臣賞

しほ そめほうもんぎ ろくせい あと おぐら あつし
〈染織〉絞り染訪問着「緑影の迹」 **小倉 淳史**
斜に走る線は、まるで通り雨のように勢いよく爽やかで涼しい。ほんのり緑がかかった利休風は、網膜に残る竹の瑞々しさの残像か。白場の美しさが薄墨に想像の色を与えてくれる。



東京都知事賞

くろがきすおぞめかんぞぼこせいほう かぜ わたなべ あきお
〈木竹工〉黒柿蘇芳染嵌荘箱「西方の風」 **渡辺 晃男**
蘇芳染め黒柿材による気品のある箱。本作品の魅力は、外と内側の諸所に木取りが見極められた黒柿の美しさであり、それを優位に表した作者の技術であろう。



NHK会長賞

はなおりおび くすのみつよ
〈染織〉花織帯「クリスタル」 **楠 光代**
濃い紺地に赤や緑の浮織が並ぶさまは、星降る夜を思わせる。花織の技術を殆ど独学で習得したという作者の文様には、規則正しい中にも清新な自由さがにじみ出ている。



朝日新聞社賞

きりかねらでんばこ あおむぎ きんじょう いっこくさい
〈諸工芸〉切金螺鈿箱「青麦」 **金城 一国斎**
小さな金銀板を直線的に連続させ穂の若々しさを強調するリズム感が心地よい。螺鈿で表された葉形は曲線的で色彩的にも好対照をなす。表現画面を大きく取れる合口造りの箱形も創意工夫を感じさせる。



日本工芸会奨励賞

もくしんどうそごふんうんざん ふじた みちこ
〈人形〉木芯柳塑胡粉「雲錦」 **藤田 美智子**
日本的な自然観が日本の童子の理想的たる御所人形に託され、心の動きが手指や脚先ににじみ、幼子の愛らしさと重なって映る。丸く滑らかな造形が柔らかな手触りを期待させる。

ギャラリートーク

本館7階ホール会場にて連日12時30分より開催
※都合により変更となる場合がございます。

1/23(水) 〈漆芸〉 **藤田 正堂**
漆芸作家

24(木) 〈染織〉 **高橋 寛**
染織作家

25(金) 〈金工〉 **萩野 紀子**
金工作家

26(土) 〈木竹工〉 **藤沼 昇**
竹工作家

27(日) 〈諸工芸〉 **白幡 明**
硝子作家

28(月) 〈陶芸〉 **前田 正博**
陶芸作家

29(火) 〈人形〉 **杉浦美智子**
人形作家

特別
展示

— わざを伝える —

金工「鍛金」
伝承者養成研修会

田口壽恒氏(重要無形文化財「鍛金」保持者)
会場内にて研修会の模様を放映いたします。

本館7階アートギャラリーのご案内

1/23(水) → 29(火) 日本工芸会 東北の作家による作品展 **手から手へ**

[最終日は午後4時30分にて終了。]



きんまばこ さいせい
鈎醬箱「彩生」
ふじた まさどう
藤田 正堂